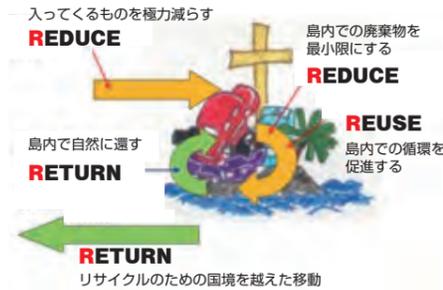


3. 循環型社会の形成

3R + リターン (Return)

循環型社会の構築に不可欠なリデュース (Reduce: 廃棄物発生抑制)、リユース (Reuse: 再使用)、リサイクル (Recycle: 再資源化) という 3R は、2004 年 6 月に開催された G8 シーアイランドサミットで、日本の小泉総理(当時)が提唱し「3R 行動計画」が採択された経緯があります。島嶼国でもこの概念が重要なものはありませんが、リサイクルを実現するための産業が十分ではありません。

そこで JICA は、リターンという言葉を追加して「3R + リターン」とし、①リサイクル可能な資源や処理困難物を海外へ輸出、②有機廃棄物の自然への還元、の 2 つの「リターン」を推進しています。



フィジー

フィジー西部にあるラウトカ市。ここでは、3R を合言葉に家庭でのコンポストづくり、学校啓発、市場の野菜くずのコンポストづくりが進行中です。分別収集を開始し、処分場に埋め立てる廃棄物量の減量化を実践しています。



Shalend Singh

ラウトカ市役所保健課
上級検査官

廃棄物減量化・資源化促進プロジェクト

期間：2008～2012

カウンターパート機関：

ナンディ市役所、ラウトカ市役所



ラウトカ市役所は JICA 専門家の指導のもと、ホームコンポスト助成プログラム、市場ごみのコンポスト化、植物性の廃棄物の裁断処理、クリーン・スクール・プログラム、処分場の改修、およびリサイクル回収サービスを開始することができたことを誇りに思います。

3R 活動はまさに、持続可能な未来に向けた環境の保護ならびに保全のための投資であり、われわれ自治体の社会的責任です。

パプアニューギニア

パプアニューギニアの首都ポートモレスビーでは、3R のコンセプトを広める目的で 3R/HEART* Initiative in Port Moresby を展開しています。



* Health, Environment, Attitude, Resource efficiency and Thoughts



John Navara

パプアニューギニア首都区
委員会環境衛生担当官

3R/HEART Initiative* は、健康 (Health)、環境 (Environment)、行動 (Attitude)、資源の効率性 (Resource efficiency)、考え方 (Thoughts) の改善・向上を目指して、3R の理念を拡大したポートモレスビー発のコンセプトです。私たちは 3R/HEART Initiative の活動を通じて、廃棄物の収集・処分システム、さらには人々の考え方や行動を変えることができると確信しています。

バヌアツ

バヌアツの首都ポートビラ市では、中央市場から発生する野菜などの有機物を回収し、コンポストにして農業に役立てる試みが始まっています。



Roger Tary

ポートビラ市役所
環境保健責任者

市場ごみのコンポスト化プロジェクトの目的は最終的に埋立て処分する廃棄物の量を可能な限り減らし、コンポスト肥料として菜園などで利用することです。制約のあるなかで、私たちが持っているキャパシティ (資金、人材、資機材・施設) によって、何が出来るかを考えていく必要があります。

大洋州のいくつかの国では、リサイクル事業を立ち上げたところもありますが、他の国ではわずかな種類の有機物を回収しているだけで他の廃棄物はすべて処分場に捨てられているのが現状です。まずは小規模な活動から始めていき、徐々に改善して、未来に向けた展開を検討することも大事だと思います。私たちは、清潔で衛生的な環境を維持し続けていきます。



4. 草の根レベルでの協力

志布志モデルをフィジー、サモア、バヌアツへ

鹿児島県志布志市は焼却炉を持たず、住民と行政の協働による徹底した分別で、2005 年度以降、毎年 80% 以上埋立ごみが減量されてきました (1998 年度比)。2011 年度からこの「志布志モデル」が大洋州で展開されています。

フィジーを中心とした大洋州における志布志市ごみ分別モデルの推進プロジェクト

期間：2011～2013 実施団体：志布志市

サモアを中心とした大洋州における志布志モデルの推進プロジェクト

期間：2013～2016 実施団体：志布志市



西川 順一

志布志市役所
市民環境課長兼環境政策室長

廃棄物管理は、住民の協力が不可欠です。住民がごみを分別して出したら、廃棄物管理は劇的に変わります。住民の心に火をつけてください。そのためには、足で稼ぐことです。フィジーではすでに分別排出が始まっています。「分ければ資源、混ぜればごみ」です。ともにがんばりましょう。

土のうを用いた道路改善

ミクロネシア連邦・チューク州で、日本の NPO 法人道普請人の協力を得て、現地で調達できる材料を用い、土のうで道路の補修が行われました。結果、水たまりが消え、収集車の通行も可能になりました。



福林 良典

NPO 法人道普請人 理事・事務局長

チューク州のダンプサイトへの道路の一部が、公共事業省職員を中心に周辺住民の協力も得て、人力で土のう工法により整備されました。

この道路整備活動が、現地にある資源を見直し、少しの工夫で生活環境を自分達で改善できる、という意識を関係者間で強くし、廃棄物管理事業の進展に生かされればと願います。

市民・事業者・行政の協働をソロモン諸島で

ソロモン諸島の首都ホニアラ市では、市民・事業者・行政が協働で廃棄物の適正管理を行っていく体制を整備することで、適正な廃棄物管理を目指す取り組みが進行中です。

New3R (リデュース、リユース、リサイクル+リターン) の理念を踏まえた官民協働による家庭ごみの分別収集システム構築プロジェクト

期間：2014～2016

実施団体：NPO 法人子ども環境活動支援協会 (LEAF)



小川 雅由

NPO 法人子ども環境活動
支援協会 (LEAF) 理事

LEAF が JICA より受託する大洋州地域を対象とした廃棄物に関する研修も今年で 6 年目になります。当時から、3R コンセプトだけではなく、「リターン」の重要性を研修員とともに考えてきました。

生ごみは大地の栄養分として土に返し、ペットボトルやアルミ缶などは資源化商品として輸出に返すことができる国際的な社会・経済システムの構築に向けて協力し合ひましょう。

利用可能な資源を商品に

草の根技術協力「美ら島ババウもったいない運動プロジェクト」では、トンガの離島の 1 つババウ島で、リサイクル可能な資源の商品化に力を入れています。

沖縄での研修では、より有利な条件でリサイクル可能資源を海外へ売却するための技術や住民・行政・企業が協力する重要性が再確認されました。

美ら島ババウもったいない運動プロジェクト

期間：2011～2014

実施団体：沖縄リサイクル運動市民の会



古我知 浩

沖縄リサイクル運動市民の会代表

紙おむつから車まで、大量消費の波が押し寄せているトンガ。一方で適正に処理、再生のためのインフラが追いつかない状況にあり、静脈産業の必要性を痛感しました。

幸い、理念を持ったリサイクル事業者と、コミュニティの絆を大事にしている若者たちに出会うことができました。彼らは、循環型社会構築への貴重なパートナーです。